５　次の文章を読んで、あとの問に答えよ。　　　〈山梨大〉二〇一九年度出題

　国際会議で外国に行くと、観光客の急増に驚く。パリやニューヨークはもちろん、ベイルート、バンコク、北京などもそうだ。「マナーの悪い観光客に困っている」という話はどこでも聞いた。

　国連世界観光機関（ＵＮＷＴＯ）の統計では、２０００年から17年に世界の国際観光客到着数は２倍に増えた。17年は７％の「高度成長」ぶりだ。昔より航空券も安いし、ネットで簡単に予約できるのだから当然だろう。

　16年のランキングだと、日本は国際観光客到着数で世界16位。ただし増加率が高く、12年から17年に３倍以上になった。今や観光は日本第５位の産業だが、多すぎる観光客のせいで「観光公害」が出ているという声もある。

　なぜこれほど急に増えたのか。アジアとくに中国が経済成長し、近場の日本が観光先になったことも一因だ。だが私が世界各地を訪ねた経験からいうと、別の理由がある。観光客からみれば、日本は「安くておいしい国」になったのだ。

　ここ20年で、世界の物価は上がった。欧米の大都市だと、サンドイッチとコーヒーで約千円は珍しくない。香港やバンコクでもランチ千円が当然になりつつある。だが東京では、その３分の１で牛丼が食べられる。それでも味はおいしく、店はきれいでサービスはよい。ホテルなども同様だ。これなら外国人観光客に人気が出るだろう。１９９０年代の日本は観光客にとって物価の高い国だったが、今では「安くておいしい国」なのだ。

　なお00年から16年に、フランスは国際観光客数が７％しか伸びていない。それに対し、日本は４００％も伸びている。国際観光客数ランキング30位までの国で４００％以上伸びたのは、日本・インド・ハンガリーの三つだ。この三カ国は、外国人観光客からみて「安くておいしい国」だといえるだろう。

　このことは、日本の１人当たりＧＤＰが、95年の世界３位から17年の25位まで落ちたことと関連している。「安くておいしい店」は、千客万来で忙しいだろうが、利益や賃金はあまり上がらない。①観光客や消費者には天国かもしれないが、労働者にとっては地獄だろう。

　元経済産業省ａカンリョウの古賀茂明はこう述べる。「日本には、20代、30代で高度な知識・能力を有する若者が、高賃金で働く職場が少ない。稼げないから、食べ物も安くなるのだろう」。古賀は米国で経営学修士を取ってｂキギョウした若者のこんな声を紹介する。「日本に帰る理由を考えたけど、一つもなかった。強いて挙げれば、そこそこおいしいご飯がタダ同然で食べられることかな。アメリカだと、日本の何倍もするからね」

　②一方で日本では、観光客だけでなく留学生も増えた。12年度の約16万人が、17年度には約27万人だ。もっとも世界全体でも00年の約２１０万人が14年の約５００万人に伸びてはいるが、これまた日本の増え方には特徴がある。

　福岡日本語学校長の永田大樹はいう。「世界で活躍するには英語圏への留学が有利だが、日本は非英語圏で、日本語習得は難しい。それでも留学生が集まるのは、『働ける国』だからだ」。日本では就労ビザのない留学生でも週に28時間まで働ける。だが米国では留学生は就労禁止だ。独仏や豪州、韓国は留学生でも就労して生活費の足しにできるが、日本より時間制限が厳しい。そのため「日本に来る留学生の層は、おのずと途上国からの『苦学生』が多くなる」という。

　いま日本では年に30万人、週に６千人の人口が減っている。17年末の在留外国人は前年末から７％増えたが、外国人の労働者で就労ビザを持つ人は18％。残りは技能実習生、留学生、日系人などだ。受け入れ方が不透明なので、労災隠しなどの人権侵害も数多い。こうした外国人が、コンビニや配送、建設、農業など、低賃金で日本人が働きたがらない業種を支えている。

　いま政府は、産業界の要請に応じ、実習生の滞在期間を延長したうえ、留学生の就労時間延長も検討している。その一方、政府が促進してきた「高度人材」のｃユウチは停滞したままだ。アジアの経済成長にｄトモナい、実習生の募集は年々厳しくなっている。外国人で低賃金部門の人手不足を補う政策は、人権軽視であるだけでなく、早晩限界がくるだろう。

　③外国人のあり方は、日本社会の鏡である。外国人観光客が喜ぶ「安くておいしい日本」は、労働者には過酷な国だ。そしてその最底辺は、外国人によって支えられているのである。

　私は、もう「安くておいしい日本」はやめるべきだと思う。客数ばかり増やすより、良いサービスには適正価格をつけた方が、観光業はもっと成長できる。牛丼も千円で売り、最低賃金は時給１５００円以上にするべきだ。「そんな高い賃金を払ったら日本の農業や物流や介護がつぶれる」というなら、国民合意で税金から価格補助するか、消費者にそれなりのｅタイカを払ってもらうべきだ。そうしないと、低賃金の長時間労働で「安くて良質な」サービスを提供させるブラック企業の問題も、外国人の人権侵害も解決しない。デフレからの脱却もできないし、出生率も上がらないだろう。

　日本の人々は、良いサービスを安く提供する労働に耐えながら、そのストレスを、安くて良いサービスを消費することで晴らしてきた。そんな生き方は、もう世界から取り残されている。

（小熊英二「「安くておいしい国」の限界」による）

※　本文中の数字の表記は、漢数字、算用数字、縦書き、横書き等が混在しているが、全て、原文に拠っている。

問１　傍線部ａからｅまでのカタカナを漢字に直せ。

問２　第三段落において筆者は、日本における観光について、数値に基づく三つの情報を提示している。三つの情報のうち筆者が最も重視している情報は何か、またなぜその情報を重視するのか、両者について説明せよ。

問３　傍線部①に「観光客や消費者には天国かもしれないが、労働者にとっては地獄だろう」とあるが、筆者は「天国」と「地獄」という言葉によって、どのようなことを言おうとしているのか、説明せよ。

問４　傍線部②に「一方で日本では、観光客だけでなく留学生も増えた」とあるが、筆者はなぜこの二つのタイプの外国人を並べてとりあげているのか、説明せよ。

◎問５　傍線部③に「外国人のあり方は、日本社会の鏡である」とあるが、筆者はこの一文を通して何を言いたいのか、これまでの日本人の生き方や日本社会のあり方に言及しつつ、説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　ａ＝官僚　　ｂ＝起業　　ｃ＝誘致　　ｄ＝伴　　ｅ＝対価

問２　Ａ国際観光客到着数が12年から17年で３倍以上になった、その増加率の高さを最も重視している。Ｂこの情報は、日本が海外諸国と比べて物価が安く、サービスもよい、「安くておいしい国」になったことを示しており、Ｃ筆者はここに現代日本の課題があると考えているから。

Ａ＝４〔「国際観光客到着数の増加率の高さを重視」という内容であれば可。〕

Ｂ＝３〔「日本は物価が安く、サービスもよい国になった」という内容は必須。「海外諸国と比べて」がなければ減点１。〕

Ｃ＝３〔「ここに現代日本の問題点がある」という内容であれば可。〕

問３　Ａ「天国」とは、良いサービスが安価で得られる、観光客や消費者にとっての快適な状態を指し、Ｂ「地獄」とは、低賃金と長時間労働に苦しめられる、労働者にとっての過酷な状態を指しており、Ｃ前者が後者によって支えられているということ。

Ａ＝４〔「良いサービスが安価で得られる」は必須。「観光客」、「消費者」のどちらかがなければ減点１。「快適」と同意の表現がなければ減点２。〕

Ｂ＝４〔「低賃金」「長時間労働」のどちらかがなければ減点１。「労働者にとって」がなければ減点１。「過酷」と同意の表現がなければ減点１。〕

Ｃ＝２〔「天国」と「地獄」の関係が書けていれば可。〕

問４　Ａ外国人観光客の増加は安くて良いサービスが受けられることに起因するが、Ｂ留学生の増加はそうしたサービスを提供する労働者が求められていることに起因し、Ｃ消費者としての外国人観光客と労働者としての留学生という対照的な存在が、日本の観光業を支えていることを示すため。

Ｃがなければ全体０。

Ａ＝３〔「外国人観光客の増加」の理由が書けていれば可。〕

Ｂ＝３〔「留学生の増加」の理由が書けていれば可。〕

Ｃ＝４〔「外国人観光客と留学生が日本の観光業を支えている」という内容は必須。「消費者」「労働者」「対照的な存在」のいずれかが欠けていればそれぞれ減点１。〕

問５　Ａ安くて良いサービスを享受する外国人観光客と、低賃金で長時間働く留学生は、Ｂ物価の安い日本社会で、過酷な労働のストレスを消費によって解消している日本人の姿を映し出している。Ｃそれは日本社会の状況が限界にきていることを表しているということ。

Ａ＝４〔「外国人観光客」と「留学生」は必須。「安くて良いサービスを享受する」「低賃金で長時間働く」の内容がなければ、それぞれ減点１。〕

Ｂ＝４〔「日本社会」「日本人」は必須。「過酷な労働によってストレスを感じている」「ストレスを消費で解消している」、どちらかの内容が欠けていれば減点２。〕

Ｃ＝２〔「日本社会の状況が限界にきている」という内容であれば可。〕